

～防災対策の取り組みと市民の防災意識向上に向けて～

愛知県豊橋市と静岡県掛川市を視察

戸田市議会の総務常任委員会は、年間活動テーマである「戸田市における防災対策について」、11月1日・2日に愛知県豊橋市と静岡県掛川市を視察しました。

豊橋市は平成 26 年に豊橋南海トラフ地震被害予測調査を行い、防災ガイドブックを作成し、全戸配布しています。毎年5000部を印刷して転入してきた方への配布、公民館に置き、市民が手に取りやすい工夫をしていました。防災ガイドブックは、「命を守る」という観点で、想定外を無くすことを念頭にあらゆる可能性を考慮して想定した最大級クラスの地震・津波モデルを設定して作られていました。危機管理課では、災害が起きた際、何処に大きな被害があるのかを確認するためにドローンを活用し、被害状況を把握して優先順位を付けて人命救助にあたっているとのこと。また、いち早く市民へ災害状況を知らせるための情報発信ツールとして、防災ラジオのほか、防災アプリ「ハザードン」や豊橋ほっとメール、YouTube とよはし防災チャンネルを作成しています。防災アプリでは気象情報、避難所情報、ハザードマップを見ることができ、5つの都市まで登録できます。ほっとメールでは防災情報・防犯情報など安心安全のための情報、日本語以外の多言語にも対応しています。YouTube「防災マン Z」では、一人で防災訓練を行うこともできるような発信がされており、次世代の地域防災の主役となる子ども達の登録者数が増加傾向とのこと。防災訓練では、防災キャンプを企画し、高校生や大学生を対象に楽しく防災を学べる場を提供していること、また小学校低学年向けに避難所を体験する DAY キャンプを実施し、子ども達の防災意識を向上させるための取り組みにも力を入れており戸田市でも取り入れたいと感じました。

掛川市では、想定される災害を6つに分類(①地震災害②津波災害③土砂災害④洪水災害⑤原子力災害⑥大規模火災)しており、南海トラフ巨大地震を想定した防災訓練を実施したとのことでした。災害時に死者ゼロを目指し、命を守るということを最優先に考え、避難勧告を躊躇せずに行うこと等が語られました。防災訓練の目的は、災害によって逃げる場所が違うことや家族での話し合いのキッカケづくりにもなるというメリットがあるとのこと。例えば、災害時、家族とどのように連絡を取るか、普段の生活の中でも家具の配置、転倒防止策の検討を進めるといったことです。

災害に対する事前の備えとしては、地域防災計画があります。災害が起こった際、市役所では全ての業務を中断して、災害本部を立ちあげ、42支部(広域避難所・救護所)にそれぞれに市職員 5 名と教職員が配置され、各自主防災会と連携して避難所運営を行うこととなっており、市職員のマニュアルを作成していました。人命救助が最優先となっていることから、福祉避難所は市の福祉課職員が対応し、医療機関との連携の視野にいたマニュアルを作成しているとのことでした。

今回視察した2つの自治体は、南海トラフ地震がいつ起きてもおかしくない地域として、地震や津波、水災害に対する行政の危機管理の意識が非常に高く、担当課だけでなく市全体が災害時には対応できるようなマニュアルや訓練の実施が行われていました。また災害時に救助が間に合わないことがないように、常に市民に防災意識の向上を働きかけ、命を守る行動につながるよう努力していると感じました。戸田市においても、台風19号の経験を基に大きな水災害や大地震を想定し、行政と自主防災会の連携強化や個々の市民の防災意識が高まるような取り組みを推進していけるよう委員会として取りまとめしていきます。